

JASIS2015 見聞録

例年の残暑に悩まされることもなく、涼しささえ感じる9月の初旬、今年も千葉市の幕張メッセ国際展示場を中心に9月2日（水）から4日（金）までの3日間の日程でJASIS2015が開催されました。私たちは2日目の9月3日（木）にJASIS本部事務局を訪れ、本年ぶんせき誌8号の「とびら」にご寄稿いただいたJASIS委員会の野元政男委員長をはじめ、内田 稔技術委員会副委員長、片岡信義事務局長のご案内の中、JASIS2015についてお話を伺いました。JASIS（Japan Analytical & Scientific Instruments Show）は、旧分析展（日本分析機器工業会）と旧科学機器展（日本科学機器協会）の合同展示会として、本年度で4回目の開催となり、その名称もかなり定着してきたように思われます。分析に関する展示会といえますと、筆者の偏見ではPittconやAnalyticaが思い浮かびました。JASISの国際的な位置付けはと言いますと、野元委員長のお話では、来場者数ではAnalytica Munichに次ぐ世界第2位なのだそう。Analytica Munichが隔年開催なのに対して毎年開催のJASISがこの位置に居るということは、名実ともに世界最大規模を意味するものと思えます。また、筆者も今年3月にNew Orleansで開催されたPittcon2015に参加してきましたが、その規模、来場者はJASISと大差ない、いや、JASISのほうがむしろ賑やかで華やかだと感じるくらいでした。実際、Pittconは来場者数、出展社数ともに減少傾向で、かつての半分程度とも聞きます。それに対してJASISは来場者数、出展社数ともに増加傾向で、今年は1,473小間（昨年1,399小間）、498社（昨年466社）の出展といずれも2年連続の記録更新で、過去最大規模となりました。初日開幕時は雨天であったこともあって来場者数は7,859人でしたが、3日間の来場者数は過去最多に迫る昨年並みの23,393人（昨年23,794人）とのことで、活況を呈しておりました。近年のインターネットの普及によって、分析業界もその情報を取り巻く環境は変化し、世界的に見てもこうした展示会は減少傾向にある中、JASISは「未来発見」のキャッチフレーズの下、デジタル情報のやりとりだけでなく、face to faceのきめ細やかな対応をすることで、まさに新しい未来を発見すべく、産学官が一体となって課題に取り組むための交流の場となっていると感じました。このことは、展示会本体だけでなく、併設される新技術説明会、講演会、セミナー、コンファレンスなどを通じて、課題を持つユーザーとソリューションを提供する企業、大学、公的機関などが直接的に相互に交流することによって成し得ることと思います。ただ、単に交流の場があることだけが必要なわけではなく、情報コンテンツの充実とともにその提供方法も重要なのだとも感じました。数年前までは、タブレット端末で実施するアンケートもやや違和感がありましたが、今ではバーコード読み取りによる来場者登録やスマートフォンとタブレット端末による情報共有は必須ともいべきアイテムとなりました。お目当ての展

示場所を探すだけでなく、その企業HPから最新の情報をダウンロードしたり、映像で情報を入手することなどもでき、JASISをさらに楽しむことができると思われます。各展示ブースの出展内容は出展社により決められますが、全体の企画および運営は60人から成るJASIS委員会で決められているとのこと。他の展示会等においては、企画、運営が企画会社などの別会社で組織されたりすることもある中、JASISでは、出展者が運営についても携わり、一体となって会を作り上げているとのことでした。だから、参加者目線に立った魅力ある展示会が開催できているのです。しかし、実際の企画、運営は大変で、会期の3日間以外はほぼ1年を通じて次の会の開催に向けた準備をされているとのことでした。ちなみに委員の任期は1期2年で再任は妨げないとのこと。野元委員長は2期目に入れ、既に頭の中は次のJASIS2016に向けられているようでした。

さて、会場に目を移しましょう。今年も展示会場は幕張メッセ国際展示場の4~8ホールで行われました（写真1）。昨年に引き続き、8ホールでは先端診断イノ



写真1 展示会場風景



写真2 先端診断イノベーションゾーン



写真3 企業プレゼンテーション会場



写真4 幕張メッセ国際会議場での講演風景

バージョンゾーンが設けられ、関係出展者の展示とともに、基調講演が二つの会場に分かれて行われました。今年は昨年よりも同ゾーンへの出展社数が倍増し、「先端診断」、「創薬」、「未病」、「フードサイエンス」のカテゴリで35の基調講演がなされ、多くの聴講者が集まっていました(写真2)。このゾーンを目当てに、今年初めてJASISに参加したという方が何人も居られ、新たな交流の場が提供されたのではないのでしょうか。企業展示ブースでも随所にプレゼンテーションゾーンが設けられ、トピックスごとに様々な発表がなされ、一方通行の展示ではなく、相互の情報交流の場として躍動感を感じました(写真3)。言うまでもなく、個々の企業、研究機関などの展示ブースはそれぞれに趣向を凝らして、新製品や新技術の紹介とユーザーからのニーズ獲得に至る所で展開され、会場内を何度巡ってもその都度新たな情報が得られる喜びを感じました。また、映像や動画などによる製品紹介も増えたからでしょうか、かつてはカタログやパンフレットで手荷物がずしりと感じたものですが、今年はその負担感もなく詳細に会場を巡ることができました。

プレゼンテーションゾーンとしては、新技術説明会が展示場に隣接するアパホテル&リゾート(東京ベイ幕張)とホテルニューオータニ幕張で行われ、JASISコンファレンスが国際会議場で行われました。新技術説明会では、今回も多くの出展企業から新製品、新技術の紹介がなされました。こちらもテーマ数は過去最多を記録し、



ポスター1 JASIS2016のポスター

360テーマの発表がなされるなど、年々増加傾向にあります。また、コンファレンスエリアでは、学会組織による研究発表とともに、各団体によるセミナーが開催され、先端の技術紹介から、基礎的な内容まで幅広く企画されました。さらに、最新情報だけでなく、セミナーとして開催される「いまさら聞けない…」などは、分析実務者にとっては、普段聞くことができない、また、学会などでは得られない基礎的、初歩的な情報やノウハウなどについて、専門家から事例を交えて直接話を聞くことができます。講師と受講生や受講生同士、また、関連企業との交流がなされることで、新たな出会いの場にもなっているのではないのでしょうか。内田副委員長のお話によりますと、これらの説明会やセミナーは毎回大変好評で、会場収容人数の関係で参加をお断りするケースもあるとか。予備座席を準備するなど会場側でも最大限の対応をされているようですが、この人気も年々上昇中のようです(写真4)。一般に開催されている企業の技術セミナーも社員研修用に好評を呈していると聞きますが、展示会共催のセミナーでは、展示会で実際の装置や関連技術などにも触れることができ参加者にとっては一挙両得です。また、全国各地のみならず、世界各国からも同業者が集う会としても重要な場であり、会場のそこかしこで親交を深める姿が見受けられました。学会とは一味違う展示会で「未来発見」できた方も多いのではないのでしょうか。

来年のJASIS2016については、今年と同じ千葉市の幕張メッセで9月7日(水)から9日(金)までの3日間開催されます(ポスター1)。JASIS委員会としては、今年以上に内容を充実させていくとのことですから、今年参加された方はまた新たな発見を求め、まだ足を運ばれたことのない方は、ぜひ来年こそはJASISへ参加してこの素晴らしい体験を共有してみませんか。

産業技術総合研究所 藤井伸一郎
産業技術総合研究所 大畑 昌輝